

館前地区 地域農業マスタープラン(実質化された人・農地プラン)

注:本様式は参考ですので、地域の話合いの結果に応じて、積極的に記載する項目を追加してください。

市町村名	作成年月日	直近の更新年月日
矢巾町	平成25年3月	令和3年3月24日(公表)
対象地区名(地区内の集落名)		
館前		

1 対象地区の現状

① 地区内の耕地面積	64.38	ha
② アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	35.04	ha
③ 地区内における75歳以上の農業者の耕作面積の合計	14.83	ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	2.36	ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	12.47	ha
④ 地区内において今後中心経営体を引き受ける意向のある耕作面積の合計	13.80	ha
(備考)		

注1: ③の「〇歳以上」には、地域の実情に応じて、5~10年後の農地利用を議論する上で適切な年齢を記載します。

注2: ④の面積は、別表「(参考)中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。

注3: アンケート等により、農地中間管理機構の活用や基盤整備の実施、作物生産や鳥獣被害防止対策、災害対策等に関する意向を把握した場合には、備考欄に地区の現状に関するデータとして記載してください。

注4: プランには、話合いに活用した地図を添付してください。

2 対象地区の課題

①地区内に認定農業者が3名、営農組合もあり担い手はいるが、営農をやっていく上での数が十分ではない。
②75才以上の後継者不明の農地が12.47haに対して中心経営体の引き受け意向の農地が13.80haで十分な余力はないため、新たな担い手の確保が必要である。③地区全体の情報交換が少ない。

注: 「課題」欄には、「現状」を基に話合いを通じて提示された課題を記載してください。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

生産物の反収アップと品質向上を目指す。
館前地区は水田地帯であり、地区内の認定農業者、営農組合共に水稻・麦を中心とした生産を行っているため、効率的な安定した農業の確立を目指す。

注1: 中心経営体への農地の集約化に関する将来方針は、対象地区を原則として集落ごとに細分化して作成することを想定していますが、その「集落」の範囲は、地域の実情に応じて柔軟に設定してください。

注2: 「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人化や農地の利用集積を行うことが確実に市町村が判断する集落営農及び市町村の基本構想に示す目標とする所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針(任意記載事項)

(1) 中心経営体への集積・集約	地区において認定農業者が3人、営農組合が1組合耕作しており、拡大を計画しているため、離農農家が出た場合は、これらの中心経営体に集積を進めるように取り組む。
(2) 耕作放棄地の防止を図る	圃場整備も終わった水田地帯であるため、耕作しやすい優良な圃場となっている。この優良なほ場を耕作放棄地にしないように取り組む。
(3) 高付加価値化	水稻の特別栽培の継続を行い高付加価値のある作物を生産するように取り組む。
(4) 機械の共同利用	機械の共同利用でコスト低減を図るように取り組む。
(5)	

5 今後の地域の中心となる経営体の状況

(1) 経営体数

	個人・任意組合	法人
① 認定農業者	3 人	法人
② 認定新規就農者	人	法人
③ 集落営農組織	1 組織	法人
④ 他市町村の認定農業者	人	法人
⑤ 他市町村の認定新規就農者	人	法人
⑥ 基本構想水準到達者 ^{注)}	人	法人
⑦ 今後育成すべき農業者	人	法人

注：基本構想水準到達者とは、①～⑤以外の者で市町村基本構想で定める目標所得を上回っている者。

(2) 農地の集積面積

	集積面積	地域内の耕地面積	集積率
現状	36.37 ha	64.38 ha	56 %
今後	50.17 ha	64.38 ha	78 %